

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「超スマート社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

サイバーとフィジカルの高度な融合に向けた AI 技術の革新

3. 研究開発課題名

社会シミュレーション・分析技術によるモビリティサービス設計

4. 研究開発代表者名(機関名・役職は評価時点)

野田 五十樹 (北海道大学 大学院情報科学研究院 教授)

5. 評価結果

評点: B (やや劣っている)

総評:

本研究開発課題は、IoT等から収集されるデータ・高次元パラメータ最適化技術・マルチエージェント社会シミュレーション技術を活用し、各地域の特性等に合致し、社会設計・人々の行動変容・政策意思決定を包含したMaaSサービス実現にかかるアジャイル的な再設計ループを持つモデリング技術とマネージメントデザイン技術の確立を目指すものである。

探索研究期間では、モデリング技術については、静岡市主催の実証実験「しずおか MaaS」に参画し、実証実験データの分析を進め、利用者の交通手段選択行動等をMaaSアプリの利用履歴データからモデル化する成果が出ている。また、マネージメントデザイン技術については、多数のステークホルダが関わるサービスを異なる目的関数をもつエージェント群の相互作用とみなし、利用者の利便性を大きく損なわない範囲で参画事業者の公平性を担保する方法を実データによるベンチマークで評価するという成果が出ている。

一方、MaaSが普及しない本質的な原因およびMaaSの実現を可能にする具体的なシナリオの明確化や、本技術を多様な都市に汎用的に適用する手法の確立については、不十分な点があった。

今後は、「しずおか MaaS」等の実証実験データの分析結果をエビデンスとした上で、本技術を多様な都市に汎用的に適用する手法の確立に向けた研究開発が発展することを期待する。

以上